

# 笠戸丸から始まった歴史

## ブラジルへ渡った理由

移住当時、日本は深刻な経済危機により食料不足や失業者が大変多く、一方、ブラジルはコーヒー農園での奴隷制度が禁止となり、人手不足が深刻でした。そんな状況の中、1907年に日本とブラジルの間で移民条約が結ばれ、「一家をあげて南米へ」などの移民の募集が大々的にされました。大農園のコーヒー畑で労働者として働き、短い期間で豊かになれるという夢を抱いてブラジルへ渡り、移住の歴史が始まりました。

## 約束された生活

1908年4月28日、781人の日本人が笠戸丸(かさとまる)に乗って、神戸港から出発し52日後の6月18日にブラジルのサントス港に着きました。港へ着いた時は、港が飾られにぎやかで、誰もが歓迎を受けると思いましたが、収穫祭が行われているだけでした。移住者にとってブラジルの地での初めての失望でした。

## 第二次世界大戦

第二次世界大戦の時は、ブラジルはアメリカを支持していたため、日本人に対してたくさんの方が禁じられました。日本語のラジオを聞く事や日本人同士が集まって日本語で話す事も禁じられ、日本語で書かれている本なども燃やされてしまいました。終戦後は、情報が入り乱れ、移



▲ブラジル移住を呼びかけるマッチ箱  
写真：広島市所蔵

その後、幾つかのコーヒー農園に家族ごとに振り分けられ、送り出されました。そこでは想像を絶する苦難がありました。住む所は古い木造づくりで、ノミだらけの小屋でした。毎日の農作業はとてもきつく、奴隷のように働かされました。それでも「ふるさとに錦を飾る」という夢を失わず、幾多の困難に立ち向かっていきました。しかし、思っていたよりもお金を稼ぐことはできず、この地で夢をかなえることはできないと分かり、つらさに耐え切れず逃げ出す家族は少なくありませんでした。

## 新たな決意

失意の中、移住者たちは、ブラジルで生きていくしかないという決意し、誇りを持って新たな出発をしました。その努力により社会的地位を築き、もともと教育熱心であった日本人は、子どもたちの将来を考え、ブラジルでしっかりとした教育を受けさせ、大学に行かせました。そのかいあって、移住



▲渡伯5年目にしてやっとの思いで獨立を果たした  
写真：古崎忠氏所蔵 広島市提供

者たちの子孫は、さまざまな分野で活躍するようになりました。

## 繰り返される歴史

1990年入国管理法が改正され、移住者の子孫とその家族が、両親や祖父母たちと同じように夢を求めて、日本に渡ってきました。ブラジルに帰る人もいますが、多くの人は再び日本へ戻ってきます。特に子どもがいる家庭では、マイホームを購入するなど定住化が進み、そのほとんどの子どもは、日本の学校に行き、自分の将来を日本で描いています。大人も日本人社会に溶け込みたいと思っしていますが、文化・習慣の違いや、特に言葉が話せないため日本人とのつながりができず、社会・地域にまだ溶け込むことができません。

## やがて共生へ

かつてのブラジルでは、移住者が「会館」を作り、地域ごとに集まって日本語学校を作り、運動会などの行事を行い、移住者の子孫やその家族しか入れないように仕組みをつくっていました。しかし、現在は多くのブラジル人も通うようになりました。移住者の子孫は今、ブラジル人の中でもとても尊敬されています。

今なお、日本でもグローバル化が進む中、100年を待たずに、ブラジルと同じようにその子孫が、日本人社会や地域に溶け込み、活躍し、尊敬し合っ共々暮らしている日はそう遠くないかもしれません。  
(参照)IMIGRACAO JAPONESANOBRASIL  
久保田 義子

## Special Interview

わたしは、北海道夕張市出身で、2歳の時両親たちとブラジルへ移住しました。初めは、サンパウロ州の都心で、小さな店を経営していましたが、ポルトガル語が分からないため成功せず、郊外の田舎で生活を始めました。

家では日本語だけを使っていたので、学校へ行き始めたころは、ポルトガル語が全く分からず何度も泣きました。学校の行事がある時は、ポルトガル語が分からないという理由で母親は来ず、寂しい思いをしました。また、両親は、ブラジル人との結婚は大反対でしたので、家を出したこともありました。

15年前に来日し、当時住んでいた新潟県では、日本国籍のあるブラジル人と言われました。当時は日本語も話せず読み書きも出来ず、「あなた日本人でしょうか?」とどうして読めないの?」などと偏見を受け、なぜ日本に来たのだろうか? ブラジルへ帰りたいと何度も思いました。そのころ、弟の誘いで美濃加茂市に転入。あつという間に13年が過ぎました。

現在、市役所で勤務し、わたしは体験して得たことを生かし、少しでもブラジル人と日本人がお互いの文化を知り、お互いに理解し合えるために、なにか役立つことは出来ないかと日々努力しています。

バルボーザ 仲 美知枝



東中学校1年  
岩村 恵美さん

将来は医者になりたい  
わたしは日系4世です。日本とブラジルは昔から触れ合ってきたと思います。お互いがそれぞれの文化を知ること、もっと仲良くなれると思います。



古井小学校6年  
村松 知弥さん

ブラジルをもっと知りたい  
ブラジルに移住してから長い年月が経っているんだなと思いました。もっとブラジルの国のことを知って、友だちとも仲良くなりたいと思います。



太田小学校6年  
長瀬 沙彩さん

ハート(心)は同じ  
ブラジルと日本では、生活の仕方や考え方が違うこともあるけど、友達を大切にすることは同じだと思います。これからもブラジルのことを知りたいです。

Interview

歴史巡廻展の写真を見て